重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	安心して充実した医療サービスが受けられる	
施策名	高度な医療サービスを安心して受けられる体制を整える	No.4

年度	平成28年度
責任部長	病院事業部長
主担当課長	経営企画課長
関係課	健康づくり課、市民病院事務局管理課・業務課、木曽川市民病院事務局業務課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
医療サービスに安心感を持っている人の割合（%）	↗	80.9	78.6	84.0	86.8	87.1	88.2	84.9
		88.2	88.3	88.3	87.3	89.0		88.8
市立病院の医療過誤件数（件）	↘	—	—	—	.	—	—	—
		0	3	0	1	2		0
市立病院の医療事故防止に係る改善報告件数（件）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		4,763	5,106	4,523	4,261	4,220		5,000
地域医療機関から市立病院への紹介率（%）	↗	—	—	—	—	—	—	—
		60.0	63.0	64.2	60.8	60.7		65.0
過去1年間で医療事故、医療ミスに遭った人の割合（%）	↘	2.7	2.9	2.9	2.6	2.3	2.7	2.1
		2.7	2.2	2.8	2.5	2.3		1.7

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

我が国では国民皆保険制度の下、国民が容易に医療機関を利用できる体制が整備され、世界最高水準の平均寿命や高い保健医療水準を実現している。こうした中、健康寿命を延ばし、生活の質の高める保険医療サービスの提供が求められている。一方、国民医療費は年々増大し、とりわけ老人医療費の伸びが顕著である。経済の低迷により保険料収入の伸び悩みと相まって医療保険財政は厳しく、中長期的な展望に立った持続可能で安定的な医療制度の構築が喫緊の課題となっていることから、多様な医療ニーズへの対応、医療費の効率化の観点からの診療報酬体系や薬価制度の見直し、医療保険制度の改革など医療提供体制の見直しが図られている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	「医療サービスに安心感を持っている人の割合」及び「過去1年間で医療事故、医療ミスに遭った人の割合」については改善傾向が見られるが、他の指標においては前年度と比較し、横ばい又は悪化となった。 以上のことから、現状評価はB、停滞とする。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
市立病院で安心して充実した医療サービスが受けられる	身近なところで安心して医療サービスが受けられる		
医師・看護師確保事業	病診・病病連携事業		
院内保育所事業	休日・夜間急病診療所事業		
医療従事者研修事業	口腔衛生センター運営事業		
救命救急センター事業			
地域周産期母子医療センター事業			
循環器センター運営事業			
結核・感染症病棟運営事業			
市民病院新病棟建設事業			
救急医療・高度医療・特殊診療部門医療機器整備事業			
健診事業			
病診・病病連携事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	市民が安心して充実した医療サービスを受けられるようにするには、市立病院の機能充実と、地域の医療機関との連携強化、休日・夜間における診療体制の確保が重要である。まちづくり指標にある、医療事故、医療ミスに遭った人の割合は、市内の医療機関の実績値であり、市内の医療機関全体での体制充実が不可欠である。市民病院では、平成30年度に緩和ケア病棟、ハイブリッド手術室の供用開始を予定している。今後も市立病院の充実強化を図るとともに、市内の他の医療機関との連携を強化する事業を維持していく必要がある。
次年度の改善計画	市民病院では、平成30年度の新病棟完成に向けて、建設工事の予算措置を行い、着実に事業の推進を図る。市立病院の医療機能充実とともに、引き続き、地域医療支援病院として地域の医療機関との連携強化を図っていく。

＊＊＊